ぼくが小さい時ちょうど年中のころ自転車がこげませんでした。けれどいまはかるがるこげます。そのためにぼくは身体中をうごかしれんしゅうしました。その結果自転車をこげることがすきになりました。

ぼくは身体ごいっしょに自転車をれん習させてもらっていました。ぼくはれん習して始めて自転車がこげたことは一番思いでぶかいせいかつでした。ぼくはこの中必死のこぎこぎをしてやっとこのれんしゅうをしてとまるのがんばりとみんなは、あたまいいなっていたいせつにほかんしてれんしゅうして自分のきょうの目ぼうです

お母さんに自転車についての思出を聞いてみました。お母さんは、近くの川でれん習をしていてこんかりのれんしゅうもしておねえさんが前でお母さんがうしろでこいでいたら、おねえさんがいきなりたなって自転車であらっていなかったそうです。

ぼくは自転車がすきです。あれは楽しいりというこれわけがあるようにかんじられたりことがあります。ぼくは、そう思いながら自転車を楽しんでいます